

茶生産技術指針

(第3版)

平成31年3月

熊本県

表9 標準的な施肥時期と施用量

項目	時期	成分量			備考
		窒素	リン酸	カリ	
春肥1	2月中旬	9	3	4	硫マグ
春肥2	3月中旬	9	6	8	
芽出し肥	一番茶萌芽直前	6			2回に分けても良い
夏肥1	5月中旬	9			
夏肥2	6月下旬	9			
土壌改良	8月上旬				苦土石灰
秋肥1	8月下旬	8	6	8	
秋肥2	9月下旬	6	3	4	
年計		56	18	24	

(5) 苦土及び石灰

茶園のような強酸性下では、苦土、石灰とも溶脱が多く、土壌の酸度矯正とともに秋肥前に施用する。苦土が欠乏した場合、葉脈の緑色を除いて黄色になる。

通常10%程度の苦土石灰を換算表を目安に秋肥の前に施用するが、アルカリ分が多いため、速効性窒素肥料と混ぜると窒素成分が揮発する心配があり、施用には間を開ける。

秋肥施用後も、土壌中の苦土が不足する場合は、各茶期前に硫酸苦土を20kg/10 a 程度施用する。

(6) 肥料の種類と特性

ア 速効性肥料

茶園では、硫酸や尿素等の窒素肥料や硫酸カリ、硫酸苦土等を利用する。土壌中で速やかに養分となり、茶樹への移行も早い。硫酸を含むものが多く、これが土壌のpHの低下を招く。

土壌pHが低い場合は、窒素ならば尿素を利用するなど、pH低下が進まないように工夫することが必要である。

イ 有機質肥料（堆肥含む）

茶園の土づくりを進めるためには有機質肥料の活用が欠かせない。微生物が多く、保肥力の高い臆軟な土を作ることにより健全な根の生育を可能とすることができる。